以上殘經に說ける世界生成說が、マニ教の說く所と一致するものなるを述べたり、而して此の如くにして明暗の兩要素を以て形成せられたる此世界には、兩者の爭絕えずとし、之に倫理的(エシカル)の說明を加へて以て人をして明神に依賴し暗魔を避くべしとするもの、卽ちマニ教義なりとす、殘經には則ち此の如くにして生成せられたる世界に、常に明暗兩者の戰の繰り返さるゝ有樣を說けり、今其一節を摘錄すれば、

其彼淨風、取五類魔、於十三種光明淨體、囚禁束縛、不令自在、魔見是已、起貪毒心、以五明性、禁於宍身、爲小世界、亦以十三无明暗力、囚固束縛、不令自在、其彼貪魔、以淸淨氣、禁於骨城、安置暗相、栽蒔死樹、又以妙風、禁於筋城、安置暗心、栽蒔死樹、又以明力、禁於脉城、安置暗念、栽蒔死樹、又以妙水、禁於宍城、安置暗思、栽蒔死樹、又以妙火、禁於皮城、安置暗意、栽蒔死樹、貪魔以是五毒死樹、栽五種破壞地中、每令惑亂光明本性、抽彼客性、變成毒藥、云々

と、而して暗茲に克ちて明更に之を從がへ、變轉盡きず。

余は敎義の上より殘經を見て之をマニ敎典と定むるには、以上の一節を以て既に足れりと信ず、もとより此敎義の特徵と認むべきものは、經中只だ此一例に止まらず、頻々として之を擧げ得べしと雖、今一々列擧する要なかるべし。

以上既に此經典の性質を定め得たりとすれば、余は先きに見たる「尒時明使告阿馱」と云へる明使、阿馱なるものゝ何なるべきやに就て一言せざる可らず。マニに知名の使徒三人あり、Adda,（また Addas: Baddas 等と記さる）Thomas, Hermas といふ、就中 Adda は、東方スキチア地方の敎化に從事せし人として知らる、（Flügel.